

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	22-317	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Changes in alcohol use during hepatitis C treatment in persons who inject drugs. 注射薬使用者における C 型肝炎治療中のアルコール使用の変化		
<b>執筆者</b>		
Martin M, Roth PJ, Niu J, Pericot-Valverde I, Heo M, Padi A, Norton BL, Akiyama MJ, Litwin AH.		
<b>掲載誌</b>		
J Viral Hepat. 2022 Nov;29(11):1004-1014. doi:10.1111/jvh.13737. Epub 2022 Sep 2.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール使用、直接観察療法、C 型肝炎、オピオイドアゴニスト療法、薬物注射者		35997620
<b>要 旨</b>		
<p>薬物を注射する人々 (PWID) は、C 型肝炎ウイルス (HCV) に感染するリスクが高い脆弱な集団であり、アルコールを併用していることが多い。本研究では、研究参加者における飲酒の特徴と相関、HCV 治療を受けている患者における飲酒と持続的ウイルス学的効果 (SVR) との関連、HCV 治療中の飲酒行動の変化、HCV 治療の特定のモデルと飲酒の経時的関連について検討した。</p> <p>参加者は、オピオイド作動薬治療 (OAT) を受けており、HCV 治療における 3 つのケアモデルの有効性を検討する無作為化臨床試験に登録された HCV 感染 PWID150 人である。依存症重症度指数をアルコール摂取の主要指標とした。アルコール摂取日数は縦断的に 3 つの治療群にわたって評価された。ベースライン時、31% (47/150 人) が過去 30 日間に少なくとも 1 回の飲酒があったと報告し、そのうち 24% (36/150 人) は過去 30 日間に酩酊するほどの飲酒があったと報告した。SVR 率に群間差はなかった。ベースライン時 (7.78±7.86 日) から 24 週目の追跡調査時 (5.78±8.83 日) まで、全体の飲酒日数には有意な減少がみられたが (p = 0.041)、酩酊状態まで飲酒した者では有意な変化はみられなかった；飲酒日数が有意に減少したのは修正直接観察療法 (mDOT) 群のみであった (p = 0.041)。</p> <p>OAT を受けている PWID のこのコホートでは、ベースラインの飲酒量は SVR 率には影響しなかった。HCV 治療は全体的に飲酒量の減少と関連していた。特に mDOT は飲酒量の減少と関連していた。肝硬変の発症にアルコールと HCV が相加的に影響することを考えると、mDOT 治療モデルの禁酒に対する相補的効果を調査するための研究が必要である。</p>		